



熟年ボランティア  
「ひたちおもちゃの病院」院長

# 小林 勇作さん

**Profile** こばやし・ゆうさく／1940年埼玉県生まれ。2003年熟年ボランティア「ひたちおもちゃの病院」設立に参加。現在「ネット・オカリナハート」代表も務める。日立市在住。

熟年ボランティア「ひたちおもちゃの病院」は2003年2月に設立へ向け準備が始まり、7月から活動を開始しました。シニア世代の市民活動グループ「熟年ネット・ひたち（ネット）」が進める活動のうち、セツある自主グループの一つです。日本おもちゃ病院協会に加盟しています。

現在のメンバーは22人。病院なので、代表ではなく、「院長」と名乗っています。仲間たちは「ドクター」。日立市内の福祉プラザや交流センターなどに「診療所」が6カ所あり、それぞれ近くの会員たちが手分けして担当。診療所での定期的な活動以外に、市のイベントなどにも参加しています。

動かなくなっておもちゃの悪いところを見つけて、修理します。電池を入れたまま押し入れにしまひ込み、液漏れしてボックスの金具がさびて、接触不良になることがあります。そんな時は古い銅版をはさみで切り、電極に似たようなものを作ります。ぬいぐるみの「骨折」などはどうにかなりません。短時間で直らない場合は「入院」することもあります。

壊れたおもちゃが再び動きだしたり、使えるようになったら、1個につき200円の病院協力を頂いています。修理ができない場合は不要です。ICの付いた玩具の不良などは、手の施しようがあ

## 子どもたちの笑顔見るため



りませんね。

院長の大きな仕事として「カルテ」の管理があります。診療の記録はこれまで、紙の状態に保存してきましたが、参考になる情報を会員に提供するため、2016年度から「ネット」のホームページで見られるようにしたいと考えています。

おもちゃが生き返って、動くようになった時の子どもたちの笑顔が忘れられません。子どもが好きで、おもちゃに興味を持っている人なら大歓迎。その二つさえあれば誰でもできます。いつでも仲間入りしてください。（談）  
（構成・谷津壽、撮影・柳下知彦）

◇ 熟年ボランティア「ひたちおもちゃの病院」の診療所、診療日時などの問い合わせは小林さんまで  
90(3)41414143。

### 私の 元気3カ条

1. 無理をしない
2. できる時にできることを
3. ふれあいの場を広げる

茨城新聞 日曜版テイスト Vol. 500 (2016年4月3日発行)

取材3月30日 インタビュー:福祉プラザ3Fボランティアルーム 写真:3Fおもちゃライブラリー